

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/17 （5/10との比較）	5/17 （5/10との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.69% （▲0.05）	81.81円 （▲0.18%）	+1.6% 2018年4Q	1.75%	発表されたCPI（消費者物価指数）は市場予想通りの内容。米中通商問題の先行き不透明感が漂う中、利下げ観測による米国金利の低下につれ、国債利回りは低下。原油価格が堅調推移となるが、カナダドルは対円で下落。	小売売上高と卸売上高などが発表予定。米中通商問題および米国金融政策、原油価格の動向などに注目が集まる中、債券・為替市場はともにレンジ内での推移を想定。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	8.11% （+0.22）	26.86円 （▲3.33%）	+1.1% 2018年4Q	6.50%	発表された経済活動指数が市場予想を下回った他、ゲジス経済相が今年の成長率見通しの引き下げに言及。景気低迷や閣内対立などによりボルソナロ大統領の支持率が低下する中、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	消費者信頼感指数や産業信頼感指数などが発表予定。年金改革が進捗すれば景気回復につながるかと政府高官が言及しており、その動向などに注目が集まる。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	↗ 景気回復	→ 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.91% （▲0.01）	5.74円 （▲0.22%）	+1.3% 2019年1Q	8.25%	中銀は、市場予想通り政策金利の据え置きを決定。トランプ米大統領がメキシコとカナダに対する鉄鋼・アルミニウム輸入関税の撤廃を発表する中、メキシコペソは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	小売売上高やGDP（国内総生産）、経常収支などが発表予定。経済政策や米国との国境問題などに関する動向から目が離せないが、引き続き高い利回りが続くことが期待されるメキシコペソについては、底堅い動きを想定。
	A3	→ 金利横ばい	↗	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/17 （5/10との比較）	5/17 （5/10との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	1.64% （▲0.09）	75.60円 （▲1.79%）	+2.3% 2018年4Q	1.50%	発表された消費者信頼感指数や雇用統計の雇用者数は市場予想を上回る内容。中国の鉱工業生産や小売売上高などの経済指標が市場予想を下回る中、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	景気先行指数や製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。総選挙では政権与党側が勝利し、モリソン首相が続投する見通し。豪ドルは、4月公表の予算案の効果への期待もあり、底堅い推移を想定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	1.79% （▲0.03）	71.77円 （▲1.06%）	+2.3% 2018年4Q	1.50%	発表された製造業PMIは前月比で改善。追加利下げの可能性が指摘され、米中通商問題の先行き不透明感が漂う中、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	小売売上高や貿易収支などが発表予定。米中通商問題を巡る動きが注目される中、中銀の追加利下げ観測から国債利回りやニュージーランドドルは上昇しにくい地合いが続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.68% （▲0.04）	12.52円 （▲0.79%）	+2.5% 2019年1Q	1.00%	発表されたGDPは市場予想を下回る内容となる一方で、貿易収支は前月比で増加。ノルウェークローネは対円で方向感を欠くものの週を通じては下落。国債利回りは低下。	失業率などが発表予定。経済ファンダメンタルズが底堅く、中銀が他の主要国中銀比でタカ派な姿勢を維持していることなどもあり、ノルウェークローネは底堅い推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/17 （5/10との比較）	5/17 （5/10との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.66% （+0.06）	7.63円 （▲1.72%）	+1.1% 2018年4Q	6.75%	発表された失業率や小売売上高は、市場予想を上回る内容。ラマポーザ大統領は、経済改革を加速し、国営電力会社のエスコムの債務問題に対処する方針を示唆。国債利回りは上昇。ランドは対円で下落。	CPIなどの発表を予定。市場は中銀が政策金利を据え置くと予想。引き続き、ラマポーザ大統領の政策を巡る動向が注目される中、債券・為替市場はともにレンジ内での推移を想定。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	7.54% （+0.04）	0.76円 （▲0.90%）	+5.1% 2018年4Q	6.00%	発表された貿易収支は過去最大の赤字となるなど厳しい内容。中銀は政策金利の据え置きを決定する中、経常赤字などが金融政策の障害となっていることを示唆。インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは上昇。	特に注目すべき経済指標の発表がない中、ジョコ大統領の政策動向が注目。米中を中心とした通商問題や同国の金融政策の動向などの影響を受けやすく、インドネシアルピアは一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	7.12% （▲0.13）	1.57円 （▲0.34%）	+6.6% 2018年4Q	6.00%	発表されたCPIの伸び率は前月より加速し、半年ぶりの高い水準。長らく続いていた下院選挙の投票を巡る動きが注目される中、インドルピーは対円で下落。国債利回りは低下。	特に注目すべき経済指標の発表がない中、下院選挙は23日に開票される予定。モディ首相の与党連合が過半数を確保するとの見方が優勢となっているが、債券・為替市場ともにその結果に反応する展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

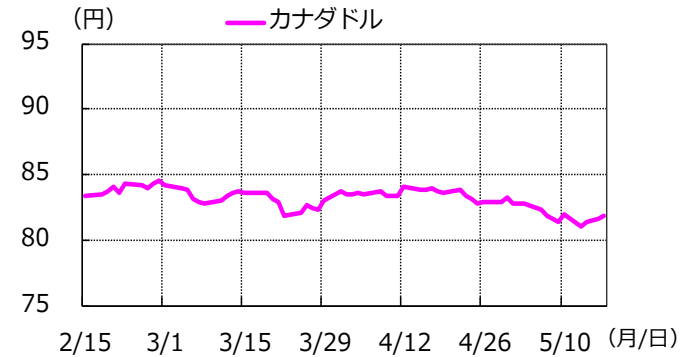
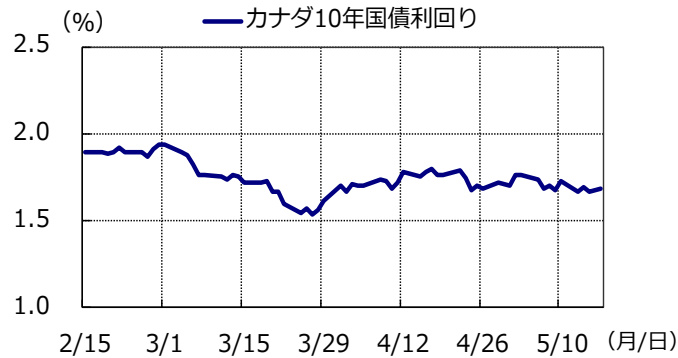
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

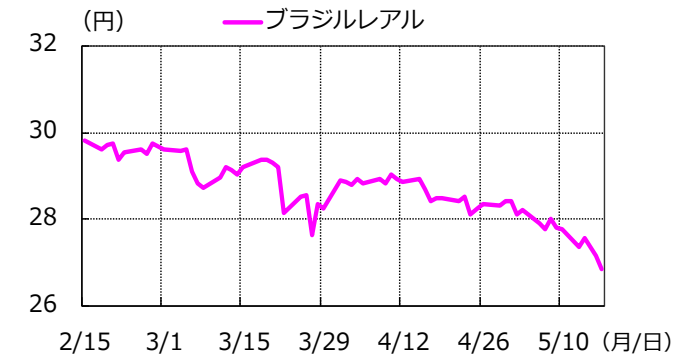
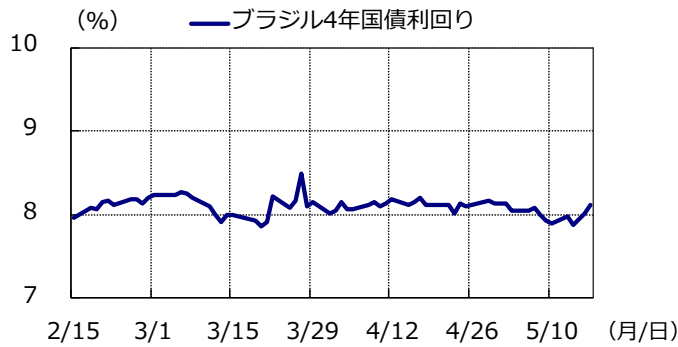
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/2/15～2019/5/17

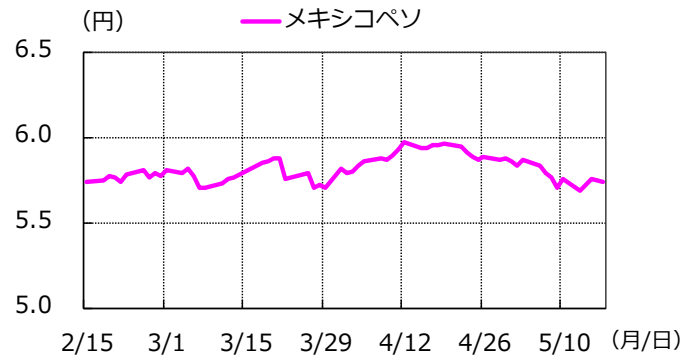
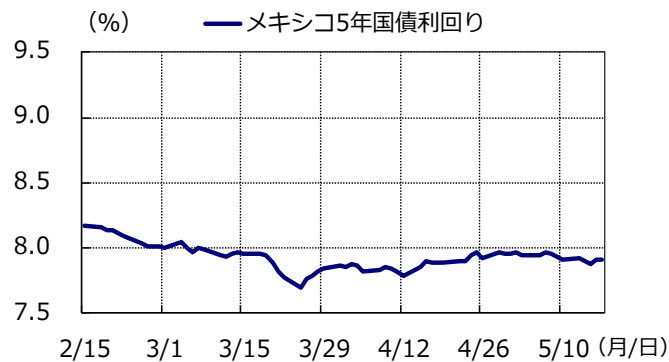
カナダ



ブラジル



メキシコ

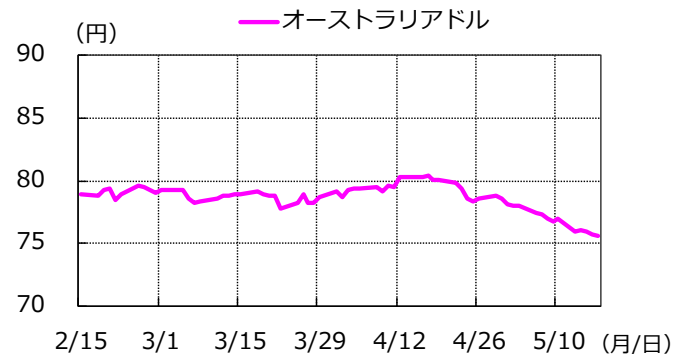
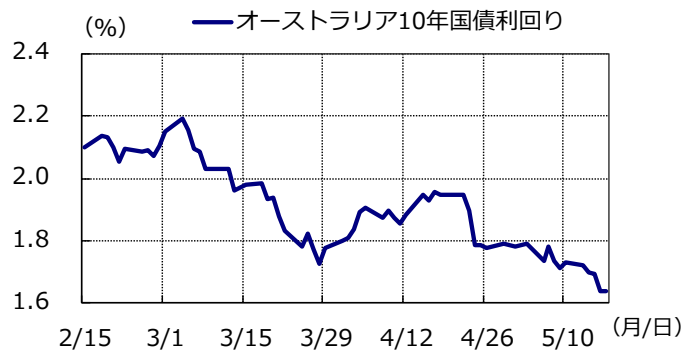


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

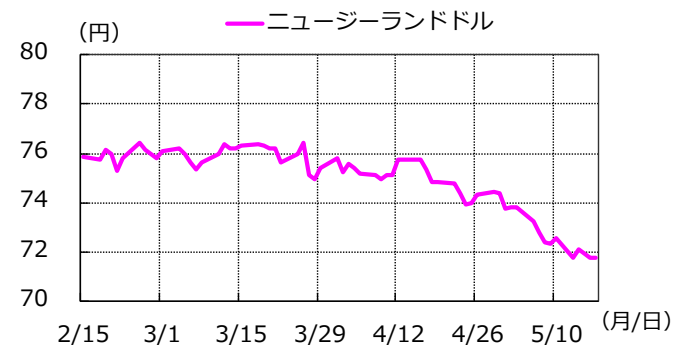
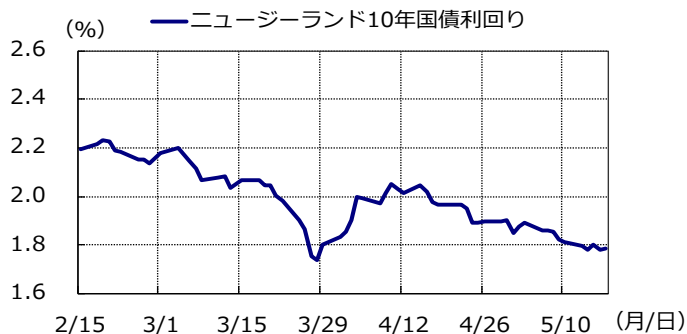
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/2/15～2019/5/17

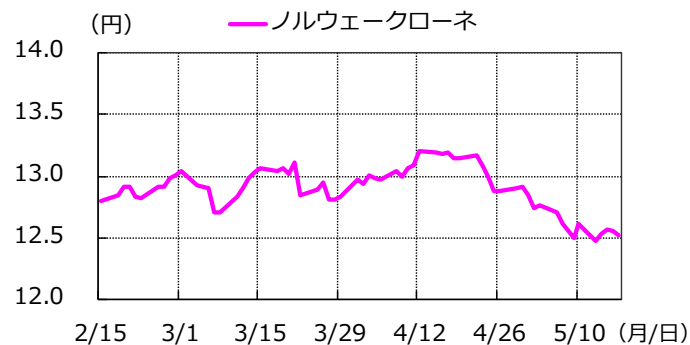
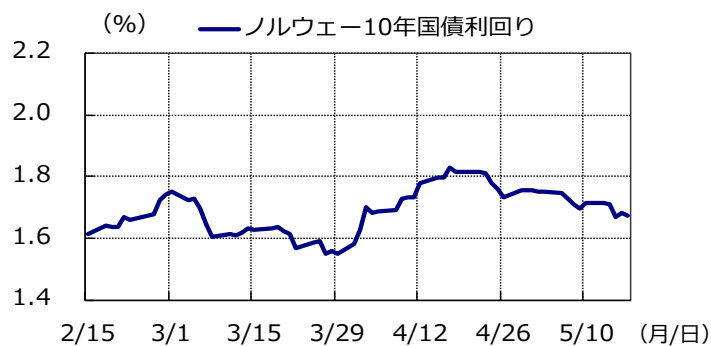
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

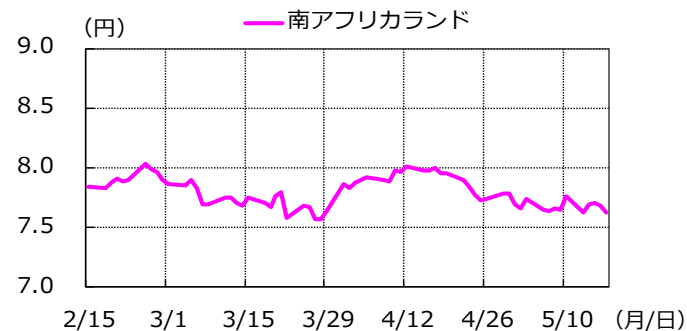
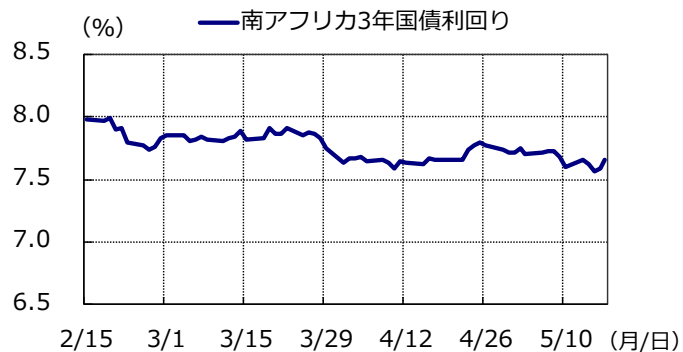


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

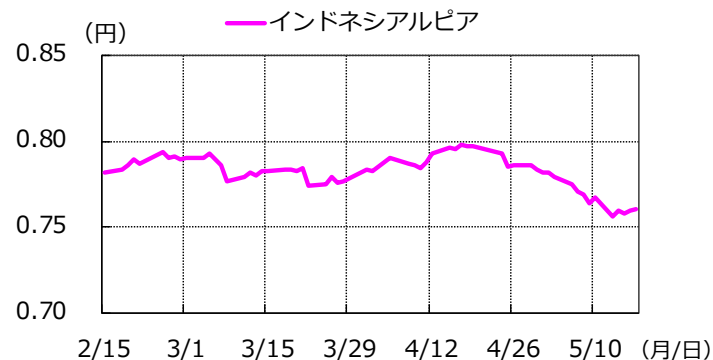
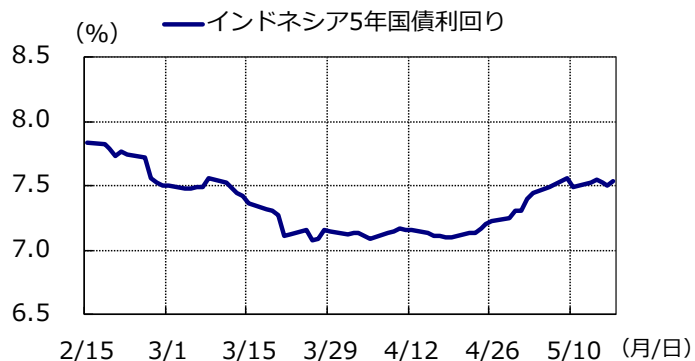
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/2/15～2019/5/17

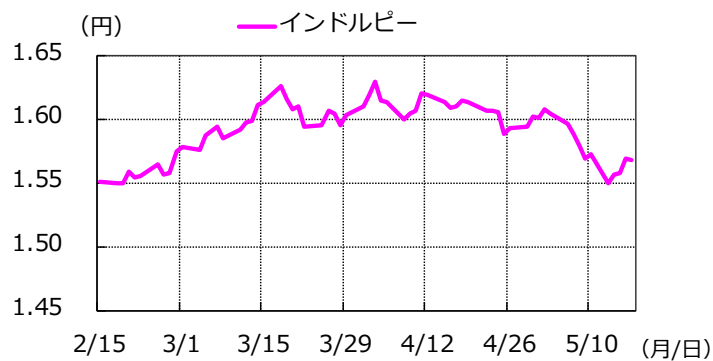
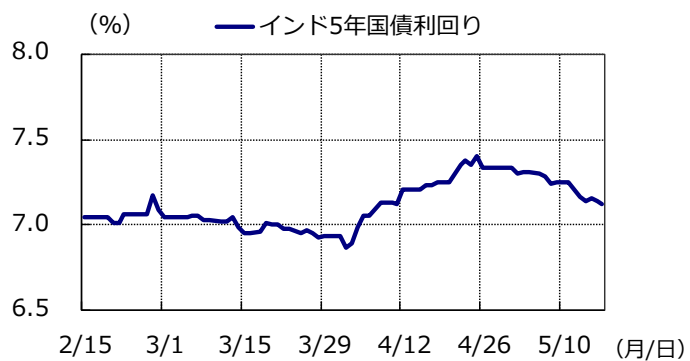
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。